

食料・農業・農村政策審議会 企画部会 地方意見交換会 議事概要（四国ブロック）

1 日時：令和7年2月20日（木）15:00～17:00

2 場所：中国四国農政局（オンライン開催）

3 出席者：

（1）ヒアリング者：

鈴木 茂晶氏 あすばら屋しげ 社長（香川県丸亀市）

井上 桃子氏 百姓百品グループ 株式会社ノムランド 代表取締役（愛媛県西予市）

市岡 沙織氏 市岡製菓株式会社 代表取締役（徳島県小松島市）

泉 京子氏 香川県消費者団体連絡協議会 副会長（香川県土庄町）

松村 晃充氏 高知県 農業振興部長（高知県高知市）

（2）企画部会委員：内藤委員（座長）、齋藤委員

（3）農林水産省：大臣官房 三上参事官、大臣官房 デジタル戦略グループ 太田調査官、大臣官房 環境バイオマス政策課 佐藤課長、新事業・食品産業部 新事業・食品産業政策課 飯田総括、消費・安全局 総務課 尾崎課長、輸出・国際局 総務課 三嶋課長、農産局 総務課 三上課長、畜産局 総務課 大平総括、経営局 農地政策課 井迫経営専門官、農村振興局 総務課 鈴木総括、農林水産技術会議事務局 研究推進課 小林課長、中国四国農政局 仙台局長、中国四国農政局 加藤企画調整室長

4 ヒアリング者の取組、意見・要望

（鈴木氏）

- ・ 香川県丸亀市で農業を営んでおり、今年で16年目となる。最初1年目は農業インターン制度を利用し、1年間近隣のアスパラガス農家で研修を実施し、2年目以降は新規就農者として就農した。
- ・ 栽培品目は、主にナバナ、ナス、ネギ等栽培しているが、バイヤーや消費者等に相談し年間を通して必要とされている品目を作付けしており、品目は四半期ごとに変化している状況。
- ・ 販路をJA以外の産直としており、スーパー（阪急オアシス、イズミヤ、サンディ等）直接取引を行い産直コーナーや店頭の棚にも商品を出荷している。
- ・ 商品の出荷は、平均年齢40歳前後の規模が小さい農家（約90軒）とグループを組み、勉強会を繰り返しながら一緒に出荷しているところ。
- ・ 生産者グループは仲間であり、リアルタイムな情報交換を行い、1軒が生産量を増やせるような取組をしている。
- ・ スーパーや卸業者からのオファーが多く、先方の要望に応じて製品化（袋詰めまで行いスーパーでは品出しするのみ）を実施し、工夫しながら出荷している。
- ・ 加工業務用野菜は、原材料を供給しているが、天候不良等の影響で原材料不足となっている。

- ・ その中で、生産量を確保していくために、現状の手作業では不十分であり、インフラ設備を充実し、規模拡大していくことが不可欠である。持続可能な農業を実現するために、機械導入に向けた支援をお願いしたい。

（井上氏）

- ・ 百姓百品グループは3つの法人で構成されており、地域の課題を農業で解決するという共通ミッションを基に活動している。現在、職員及び利用者約100名、農家約500名で3つの法人を支えている。
- ・ 百姓百品（株）は、農産物直売所を運営しており、西予市内の高齢農家400から500名が加入している。
- ・ （株）ノムランドは、2008年に創業し、青ネギの周年栽培・販売を行う。経営面積は、8.2haで全面積青ネギの栽培を行っている。
- ・ （株）野村福祉園は、人員確保の観点から就労継続支援B型作業所を運営している。
- ・ 青ネギは全国的に栽培しやすく、栽培面積が広がった影響で、競合と比べ都市部への配送コストが高くなり、価格的に厳しくなり、約2年前から小売用の青ネギの栽培・販売を始めたところ。
- ・ 過去、コンビニやカット工場にネギを納品し加工販売されていたが、現在は「朝霧ねぎ」のブランド化を進め、関西方面や山陰方面に小売用の青ネギを出荷しているところ。出荷量の約10%を占めるようになった。
- ・ 今後の展開として、地域的に耕作放棄地や高齢化が進んでおり、農地を使用してほしいという依頼が多く、現在青ネギのみの栽培をしているが、ホワイトコーン、にんにく、サトイモ等の栽培を検討している。
- ・ 今後、ノムランドの野菜として商品を届けられるよう作物をブランド化していく体制を整備し、耕作放棄地を減少させ、次世代の農業者の育成にも力を入れていきたい。
- ・ 要望として、中山間地域のため元水田が多く、畑作を行うには排水改善を行い土壌改良が必要となる。近年では特に夏場の不生育が多く、夏から冬にかけての収入にも影響が大きかった。
- ・ 自己施工には限界があり、安定生産のためにかん水作業が重要である。畑地化かんがい整備事業等についても検討いただけないかと考えている。

（市岡氏）

- ・ 徳島県で菓子の製造販売を行っており、ナンバーワンよりオンリーワンの商品づくりを目指している。
- ・ 特徴として、地元農家から仕入れた徳島県内の農産物を使用した安心安全なお菓子作りをしている。
- ・ 1次加工から自社で行い、現在は常温保管の半生菓子を扱っているが、今後冷凍保管の可能な商品開発・販売を考えている。
- ・ よりフレッシュな材料を使用することを考えると冷凍保管のほうが商品化を目指しやすく、ワークライフバランスを重視しており計画生産をすることで年間を通じた生

産体制を整理することが可能となる。

- ・ 長期的な安定した経営を目指す意味で、販売チャネルの売上構成比のバランスを重視しており、現状ではスーパーマーケット、コンビニエンスストア、OEM 等新規開拓しているが、一番注力しているのが海外への輸出である。
- ・ ベトナムのホーチミンの近くに製造工場の子会社があり、ASEAN を中心に展開していきたいと考えている。
- ・ 意見として、輸出する上で第一関門は企業名を浸透させるのは難しく、相手に安心感を持っていただくために、様々なプロモーションを行える土壌づくりを支援いただきたい。
- ・ 関税が軽減される関係性の相手国が増えると輸出しやすくなる。
- ・ 賞味期限の考え方について、日本と世界の違いを感じる。日本のおいしく食べられる期間に安全率や納品期限を重ねていくため、短期間の販売期間となる。
- ・ 海外では、食べることができる消費期限を設定している場合が多く、配布資料2の41 ページ（2）食品ロス削減に記載がある「食品期限表示の設定のためのガイドライン」の見直しを進めていくことで、より多くの企業が輸出に取り組みやすくなるのではないかと。
- ・ 近年気候変動等の影響で、収量の不安定さが世界的にも顕著であり、原材料を安定的に確保することに苦労している。生産者がより安心して安定的な供給ができるような環境づくりを支援いただくことを希望する。

（泉氏）

- ・ 香川県内の消費者団体が相互に協力し、5市町から構成されている。
- ・ 取組の特徴として、消費者の地位向上を図る啓発活動、暮らしを守る実践活動、相互協力を図るための情報交換、消費生活相談員等の資格取得を目指す者の活動を行っている。
- ・ 美しい環境と生活安全を守る事業として地産地消・食育推進に努めている。
- ・ 更に省資源推進事業としてマイバッグ・マイボトル持参、食品ロス削減に努め、人に優しい消費者行動、環境にやさしい消費者行動を推進している。
- ・ 今後の展開として、引き続き人や環境にやさしい消費者行動を推進していく。
- ・ 意見・要望としては、日本は農薬使用量が多く、欧米で使用禁止している農薬が日本では日常的に使われている場合がある。農薬残留基準も EU と比べると緩く、国民の命と健康を守るという観点で、見直しを希望する。
- ・ 輸出拡大を目指す上でも、その基準をクリアする必要がある場合、基準を厳しくする必要があるのでないかと考えるが、まずは食料自給率が減少しないように考えてほしい。
- ・ 有機農業の推進について、今後更に強化し、安定的な生産ができるよう技術開発を希望する。生ごみ等を資源として循環させ有機肥料を作り、更に有機農業新規就農者の支援・育成を行うことが有機農業を推進していく上で重要だと考える。
- ・ 農業への関心が深まるよう、大人も子供も農業体験をする機会を増やすことが重要

と考える。

- ・ 高齢化で後継ぎがいらない等、中山間地域の田畑が荒廃しており、荒廃する前に担い手に引き継がれるような対策があればいいと考える。
- ・ 若者の和食離れで和食文化が引き継がれていないことは残念であり、和食の良いところを教育の中で発信していく機会が増えたら良いのではないかと考える。
- ・ 農作物は天候の影響が大きく、価格変動が激しい。価格が安定して生産者、消費者とも Win-Win となる関係性を希望する。

(松村氏)

- ・ 高知県は、四国南部に位置し東西に長い扇状の地形で県土の 8 割を林野、9 割を中山間地域が占め、温暖で雨の多い気候である。このような条件のもと、施設園芸が盛んであり、ナス、ニラ、シシトウ等ハウス栽培により算出額全国 1 位の品目が多数ある。
- ・ 農家数や耕地面積等は近年減少傾向である。
- ・ 取組の特徴として、高知県産業振興計画を策定しており、4 年を 1 期とし令和 6 年度は第 5 期の 1 年目となる。
- ・ 高知県産業振興計画の中にある、資料 3－1「農業分野の施策の展開」について、地域で暮らし稼げる農業を目標として、農業産出額等や農業生産量の目標達成に向けて 5 つの柱のもと取り組みを進めている。
- ・ 柱 1 では生産力の向上と持続可能な農業による産地の強化、柱 2 では中山間地域の農業を支える仕組みの再構築、柱 3 では流通・販売の支援強化、柱 4 では多様な担い手の確保・育成、柱 5 では農業全体をけん引する基盤整備の推進と優良農地の確保する取り組みを進めている。
- ・ 今後の展開について、農業のデジタル化を更に進め、気候変動に適応した栽培技術の普及推進を進める。更に特色ある畜産の振興、新規就農者の確保・育成、地域計画に基づいた担い手への農地集積、優良農地の創出に向け基盤整備の推進を進めていく。
- ・ 意見・要望について、施設園芸を中心とする当県では資材高騰の影響は肥料や燃料に加え、ハウス建設費等の広範囲に及び、新規就農者の減少、規模拡大意欲の減退、経営圧迫による離農などに影響することが懸念されている。
- ・ 国の臨時交付金を活用した対策を講じているが、緊急的な対策に留まっており、安心、安定した食料供給を実現するために、各種セーフティネットの継続・充実、国際情勢などの外的要因による急激な環境変化に対する機動的な財政支援、外的要因に左右されにくい構造への転換支援が必要と考える。
- ・ 農産物の価格形成について、コストを取引価格に転嫁でき、地域や品目の特徴を捉えた再生産可能な価格による取引が可能になるような実効性のある制度の構築が必要と考える。
- ・ 去年は猛暑によりこれまで県内で影響の見られなかった品目でも生育不良等の影響があり、営農の大きな支障となっている。こうした気候変動の中でも安定的な食糧供給を継続するためには、高温障害の発生を抑制できる栽培技術、資材や高温耐性品種

の開発が求められ、国の主導による早急な技術及び品種開発が必要と考える。

- ・ 中山間地域において農業の維持・発展に必要な農業経営体の確保、地域を支える組織の育成支援、中山間地域等直接支払・多面的機能制度の推進が必要と考える。
- ・ 新規就農者について、特に 30 代以下の若年層がピーク時（H28）に比べ大きく減少している。新規就農者の確保に向けて、全国的な取組として、農業を職業として意識・選択してもらうためのキャリア教育の充実、広報の展開、固定的な性別役割の払拭や労働環境整備の取組が必要である。
- ・ 農家数が減少する中、基盤整備による効率的で生産性の高いまとまった優良農地の確保が必要である。
- ・ 南海トラフ地震対策として農業用ため池の対策工事をはじめとする農村地域の防災・減災対策の強化、豪雨対策として排水機場の機能強化などが安心して営農を継続するために不可欠であり、国の支援なしではスピード感を持って進めることは難しく十分な予算確保を依頼したい。

5 意見交換の概要

（斎藤委員）

- ・ 鈴木氏の意見・要望に畑の機械の導入支援をお願いしたいとあるが、どの様な機械を想定しているのか、また、現行制度ではカバーできていないのか伺いたい。
- ・ 井上氏の意見・要望の中山間地域の農業基盤強化について、現行制度で農地耕作条件改善事業があるがこの事業を使うことができないか伺いたい。
- ・ 市岡氏には、賞味期限の日本と海外の制度の違いについて、どのように日本の制度を直せば良いとお考えか。例えば農林水産省ではなくて表示の問題であれば別の省庁も関係すると思うので、そのあたりのお知恵を伺いたい。
- ・ 泉氏の有機農業の強化について、現在、有機農業は全国で 2 万 5 千 ha 位であるが、みどりシステムにより 100 万 ha を目指しているところ。有機の商品を生産しても、マーケットがなく、若い生産者はペイできなくて困っている現状がある。消費者にきちんと提供できる方策があれば伺いたい。
- ・ 松村氏には、南海トラフの地震対策や豪雨対策で排水機場の強化を要望されているが、このほかにも、たとえば堰堤の強化など様々なことがあると思うが、もっとないか伺いたい。

（鈴木氏）

- ・ トラクター本体に付けるタイプの物は補助事業があるが、トラクター本体や軽トラックといった汎用性のある機械については、汎用性が高いことで補助事業の要件で外れてしまう現状がある。最近の価格高騰により新車で購入することも想定から外れてしまう。
- ・ 補助事業は、不正がないとか、一つの目的に沿って、それに対応する機械というのは理解できる。汎用性の高いものを組み合わせよう工夫して、農作業の固定費を下げつつ作業を進めていかないと、現預金の減少や資金がショートする怖さの方が先

に立っている。汎用性の高いもの捉え方がどうにかなれば、さらに前に進めるきっかけづくりになると考えている。

- ・ 井上氏の排水の部分も香川県も同様で、排水事業を個人レベルで取り組もうとしており、この辺は興味深いことと思っている。

（井上氏）

- ・ 農地耕作条件改善事業を知らなかったなので、適用できるのであれば活用して農地の排水改良を行いたいと思うが、畑は山間に点在しており、また 10a 以下の畑を何十カ所も借り受けていることもあり、その点が気になっている。

（市岡氏）

- ・ 賞味期限の考え方の違いについて、日本の考え方そのまま海外輸出商品に賞味期限を付けると、文化が違うので日本で安全率を掛けているものに、さらに、海外の安全率を考慮して購入されることが発生した。そうなる食べられる期間が無くなることになるので、考え方を変えて、海外の法律に則った海外向けの賞味期限を付けている。このようなことをすることで、より海外の方にも食べていただける環境づくりができるのではないかと考えている。海外に特化した賞味期限を設定することが大事だと感じた。
- ・ その考え方を取り入れた商品を作る中で、日本に目を転ずると販売期限などがあり食品ロスが出ていることはあると思う。
- ・ 事業系食品ロスの発生抑制の取り組みに向けて、納期期限の緩和、賞味期限の延長、食品期限表示の大括り化などの商習慣の見直し徹底、外食における食べきり等を推進するっていうようなことが書かれており共感した。
- ・ よくニュースであるような欠品が許されないの、多めに作ってたくさん捨てますとか、菓子も正直作りすぎて賞味期限・販売期限が切れたからまだ食べられるのに廃棄になるという現実が、目の前で起こっている。
- ・ 海外を知ったからこそ感じる、もう食べられる商品は食べきりましょうというような考え方がもう少し日本でも進めていただきたい。これだけ食料が大切になっている中で、食べられるものを食べていったほうがよいのではないかと感じているため、食品ロスの発生抑制の取り組みのところの推進をお願いしたい。

（泉氏）

- ・ 有機野菜を頑張って作ってくれているのに、なかなかそれが売れなくて農家の方が疲弊するということは残念なことで、消費者の有機野菜に対する認識がさらに高まらないといけないと思う。
- ・ ただ、山盛りにされた安いものに手が出るという消費者行動も止めることはできないし、あまりにも価格に違いがあると難しい。できるならば、みんなが有機野菜の方向に向くことが一番良いのではないかとと思うが、そこに安定供給ができるような技術を高めていただいて、今までの農業から変わっていく方向になることを期待。

(松村氏)

- ・ 地震対策という意味で言えば、山が多いので地すべり対策もしっかりと行っていききたい。国の支援もいただければと考えている。
- ・ 気候変動という意味では、天候の変化が激しく、豪雨も降れば、日照りも続くということもあり渇水にもなってくるので灌漑や井戸を掘るといったことも考えられる。高温対策でも水を使用するので、そういった部分のインフラ整備は必要ではないかと考えている。

(内藤座長)

- ・ 今後生産を拡大するうえで障壁になるのは何か。それに対して企業努力として何をして突破していこうとしているのか。更に行政として規模拡大に対してサポートできることはあるのか伺いたい。

(鈴木氏)

- ・ 四国全域に当てはまるのかもしれないが、特に香川県は水田で野菜を栽培している形が多い。20a以上のほ場も珍しい状況であり、大きな機械の導入は現実的ではない。強みとして気候が温暖なため年間を通じてニーズに合った作物を栽培できる。
- ・ 四国全域で汎用性の高い作物でニーズに応じて栽培していく施策があれば対応していきたい。作物は作り続けていきたい。

(井上氏)

- ・ 農地の小ささが生産コストを底上げしている。今現在社屋の近くに基盤整備事業が入っているが、5年かけて大きな農地が手に入ったところ。
- ・ 農地を貸したり借りたりするということが厳しく、暗渠設備の工事を進めるスピードが遅い。
- ・ 企業努力としては、耕作面積が増えるに従い、栽培面積を増やしていきたいところであるが、輸入品の販売量が多く占めており、当地域では配送コストがかかる分価格負けしてしまう。何かしらの対策を考えてくれると助かる。配送コストや販路拡大への商談会への参加への出店費用負担等支援があると、小さい企業が規模拡大しやすくなると思う。

(内藤座長)

- ・ 基本計画の中では、インバウンド向けの農産物食品の販売についても記しているが、インバウンドに対してビジネス機会は見られているのか。今後伸ばしていくために行政でサポートできることがあるのか伺いたい。

(市岡氏)

- ・ 大きな要望はないが、インバウンドが集中する地域があるので、インバウンドの方が行くところが固定化している。飲食店を含め、加工品ではない業種の方はどうして

も地域に来ていただかないといけないところがあり、地域性をアピールできるようなプロモーションの仕方や、それぞれの地域の良さを知ってもらえる施策があると海外の方へのPRが進むのではと思う。

（内藤座長）

- ・ 和食では食育に関してお話があったが、和食文化を継承するための考えがあれば伺いたい。

（泉氏）

- ・ 和食文化の発展について、自分自身も和食を継承できてないので次の世代に伝えることができない。お寿司、味噌づくりなどを伝える教室があると機会がもっとあるといいのかなと思う。食生活推進委員が地元にあるので、委員を巻き込んで和食の良いところをPRできればいいのかなと思う。

（内藤座長）

- ・ 高知県の取組について多角的に説明いただいた。どの領域でも構わないが、独自の施策で効果があり、全国に横展開できる施策があれば紹介いただきたい。

（松村氏）

- ・ 高知県の地理的条件は84%が森林であり、平場が少ないので農地も少ない。一方で冬も暖かく、日照量が多い。このような条件を生かして、狭い農地の中で効率的に収量を上げていくために施設園芸が発展してきた背景がある。
- ・ 更に発展させるために、オランダの環境制御技術を学び、デジタル技術を掛け合わせることで更に収量アップを狙いIoTプロジェクトとして、国の支援のもと取組を進めているところ。
- ・ 実際にハウスで導入され、品目により差はあるが以前より収量が20~40%アップしたという実績もあり、デジタル技術を活用した効率的な農業生産は全国に先駆けて進んでいると考える。

（鈴木氏）

- ・ 汎用性という部分で話し合いができればと思う部分が一つとこのような会をきっかけに横のつながりができるチャンスがあると感じる。そこに対して行政が協力していくスタートラインに立てたのではないかな。

（井上氏）

- ・ このような機会があり、勉強となった。このような機会をまた設けて、四国の農業が発展していくように努めていきたい。
- ・ 当社はまだ若い会社であり、企業努力がまだ必要と考えている。今後、日本の農業が発展していくことに加え、中山間地域の星になるような経営体を持続可能な形で運

営していきたいと考えている。

- ・ 日本の農業生産についてはたくさんサポートいただいていると考えており、我々自身も更に頑張っていきたい。

（市岡氏）

- ・ このような場に参加し、自分自身の勉強となった。当社のような加工品メーカーは安定供給が大事である。近年は気候変動の影響で安定しない一次産品が多くなっている。
- ・ 安定的な輸入の確保、食材の確保について、国としてどのように取り組みをされているのか伺いたい。

（輸出・国際局総務課 三嶋課長）

- ・ 海外での販売支援について、JETRO でのジャパンパビリオンへの出店支援、J-F00D0 による消費者向けのプロモーションで輸出促進を図っているところ。出展手続等は各県にある近くの JETRO にお問い合わせいただきたい。
- ・ 認定の品目団体がオールジャパンで行うプロモーションも支援しており、菓子については認定品目団体として一般社団法人全日本菓子輸出促進協議会があるので、紹介させていただく。
- ・ 輸出及びインバウンド需要の好循環を通じて海外需要の拡大を図っていきたい。
- ・ 安定的な輸入の確保については、骨子 27 ページ 7 輸入の安定化に記載があるが、国内生産で全ての国内需要を満たすことができない主要穀物等について、情報収集や国と民間との連携により輸入相手国の多様化を図り、輸入相手国への投資促進等図っていきたいと考えている。

（泉氏）

- ・ 農家の方のご苦勞がよく理解できる。安定的に収入が得られるような仕組みが必要と考える。
- ・ 骨子（案）では「今後 20 年程度を見据えた課題の整理」と記載があるが、ずっと続くことだと考えており、更に先のことを考えての取組を考えていただきたい。

（松村氏）

- ・ 資料 1 の主要テーマ 1 「食料自給力の確保」の中で「共同利用施設等の再編集約・合理化」とあるが、今後の効率的な集出荷体制の構築という意味では重要なポイントと考えている。再編を進めるには地域の調整が必要で時間がかかるため、この取組事業については長いスパンで継続した取り組みとなるよう国として考えていただきたい。

（内藤座長）

- ・ 補助金の汎用性の問題は、国の税金を使用するため一定の規定があるのは仕方ないと思うが、基本計画を作成し、戦略を決めていく上で、戦略に沿った対応をしている

方に対して支援ができないのは、計画・戦略の実行がなされないということ。

- ・ 補助金という性質上規定は必要だが、ヒアリングさせていただいたやる気があり将来に向けて頑張ろうとされている人たちが、思う存分力を発揮できる業界になればよいと考えている。

（中国四国農政局長）

- ・ このような機会をもっと作るべきという意見があったが、このような機会は重要だと考えており、齋藤委員が会長を務めている日本農業法人協会とも横のつながりを持っているところ。
- ・ 中国四国地方各県でも横のつながり、ネットワークを大事にし、中国四国農政局として更に横のつながりを広げていきたいと考えている。

（以上）